Vol.90　リディアン♭7thスケールがⅡ7やⅣ7で使える理由

では、『10分トレ』vol.90、始めていきましょう。

今回は、vol.87で「後で解説する」と言っていた、「特定の場所でリディアン♭7thスケールが使える理由」について、簡単にお話していこうと思います。

まず、前回までのテキストでは、Ⅱ7とⅣ7の上で使う、と言う事をやっていましたね。

実際の所、別途配布している【教科書】の終盤(特にvol.78)でも解説している様に、リディアン♭7thが使えるタイミングは他にもあります。

ただ、その辺りを全て解説すると、話が凄まじく長くなってしまうのと、「その時、使おうと思えば使えるけども、使わない(別のものを使う)」と言う事も多々あるので、ここではⅡ7、Ⅳ7のロジックに留めておきます。

2種類のみの解説ですが、考え方自体は他のコード&スケールにも応用できるので、基本として把握しておくと他を学ぶときにも役に立つでしょう。

ではまず、Ⅱ7からですが、key=Cだとしたらコードは D7になりますね。

D7は、Cキーのダイアトニックコードには含まれておらず、素直に調性ベースで考えるならば、G or Gmキーに繋がる5度が出てきた(かも)と考えるのが普通でしょう。

そして、vol.88で「その後、ドミナント・モーションをしない場合」と書いたのですが、仮にするとしたら、D7上で使うスケールとしては、

・G(GM7、G7)コードに解決する場合は、Dミクソリディアン(Gキーの５－Ⅰの解釈)
・Gm(Gm7)コードに解決する場合は、DHmp5↓(Gmキーの５－Ⅰの解釈)

辺りが基本となりますね。(※一般的な楽曲の場合)

例えば、Cキーの曲を弾いていて、どこかでD7が出てきて、その後GかGmに進む場合(V-Iにあたるドミナント・モーション)は上の解釈が普通になります。

で、今は、前2回のテキストでやったように、ドミナント・モーションをしない場合の事を考えているので、いきなり出てきたD7(II7)がどこから来たのか？を理解すればいいわけですね。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

初めに結論を言ってしまうと、A メロディックマイナーのダイアトニックコードから来ているのですが、ここに繋がる流れを見ていきましょう。

まず、最初の時点では key=C の楽曲を弾いています。

C キーの基準スケールは C メジャースケールですが、このスケールの平行調として、Am キーとその基準スケールの A ナチュラルマイナースケールが存在しますね。

マイナーキーの楽曲と言うのは、ナチュラルマイナーを基本に、ハーモニックマイナー&メロディックマイナーに変化したり、戻ったり、と言う動作が(大体の場合)起こります。

この時の、A メロディックマイナーのダイアトニックコード中の 4 度の所に、C キーから見ると D7&D リディアン♭7th にあたるものがあるんですね。

※A メロディックマイナーのダイアトニックコードとモードスケール

Ⅰ mM7	**AmM7**	**A メロディックマイナー**
Ⅱ m7	**Bm7**	**B ドリアン♭2nd**
♭Ⅲ augM7	**Caug M7**	**C リディアン♯5th(リディアン・オーギュメント)**
Ⅳ 7	**D7**	**D リディアン♭7th(リディアン・ドミナント)**
Ⅴ 7	**E7**	**E ミクソリディアン♭6th**
Ⅵ m7(♭5)	**F♯m7(♭5)**	**F♯エオリアン♭5th(ロクリアン♮2)**
Ⅶ m7(♭5) or VII7(♭5)	**G♯m7(♭5) or G♯7(♭5)**	**G♯オルタード・ドミナント**

A メロディックマイナー(≒Am キーの派生)から見ると D7 は 4 度ですが、C キーから見ると 2 度のコードがドミナント 7th に変化している、と見えるわけです。

で、この関係性から、C キーのⅡ 7 上では、リディアン♭7th を使う、と言う事になるのですね。

何もわからない場合、Ⅱ 7 やリディアン♭7th はいきなり出てきた様に感じますが、この話の流れの通り、元のキーに近しい、近親調(関係調)が絡んだロジックだ、と言う事です。

同じ様に、Ⅳ 7 でリディアン♭7th を使う理由も、元が C キーだとしたら、それの同主調である Cm キーを見てみればわかります。

上記 A メロディックマイナーの表の 1 度の音を C に変えて、C メロディックマイナーのモードを考えてみると、4 度のコードがドミナント 7th になり(F7)、F リディアン♭7th スケールが対応していますね。

こんな感じで、イレギュラーっぽいものも、多くの場合、「基本的には“元の基準にしているキー(とスケール)に近しいなにか”から解釈を持ってきている」と考えておくと良い

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

でしょう。(※逆にガラッと雰囲気を変えたい時は、元のキーから遠いものを使えば良い)

ちなみに、Ⅱ7上でリディアン♭7thを使うのは元のキーがメジャーの時で、マイナーキーの曲で(ドミナント・モーションをしない)II7が出てきた場合は(主に)オルタード・スケールを使います。

この理由なんですが、想像できますでしょうか？

例えば、Cmキーの曲があったとして、D7が出てきた時、Dオルタード・スケールを使うならば、それはE♭メロディックマイナーと同じ音構成ですね。

このE♭関係のキーを探ってみると、Cmキーの平行調がE♭キー、E♭キーの同主調がE♭mキー、E♭mキーの基準スケールとなる3種のマイナースケール内にE♭メロディックマイナーがあります。

で、良く見てみると、Cmキー＝Cナチュラルマイナーの構成音と、E♭メロディックマイナーの構成音は非常に近い、と。(※GとG♭の違い)

さらっと解説しましたが、こんな感じでイレギュラーに見えるものが出てきた場合、まずは元のキーやスケールに近しい何かに当てはまるものは無いか？を考えてみると良いでしょう。

そして、それと同時に、「この様な基礎理論から外れたことをやる場合も結構ある」と言う事を頭の片隅に置いておく、と。

実際の所、今はドミナント・モーションをしない場合のX7で考えてきましたが、する場合(V-Iにあたる進行)でも、そのX7上でリディアン♭7thを使う事もあります。

(※例えば最初のⅡ7の例で言うと、D7の進行先がGかGmだった時(V-Iの流れ)に、D7上でDリディアン♭7thを使う場合も実はある)

まあ、最後にこんな事を言ってしまったら、色々と確信が持てなくなる気もしますが、最終的には「これらの基本を踏まえた上で、それを理解しながらも自由度を失わない」と言うスタンスでいるのが最もバランスが良いですね。

色々と小難しく書きましたが、まあ、こう言った話は「大元の考え方」位に捉えてもらえれば、と。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

後、本当に最後の最後は『自分の耳で聴いて判断』ですね。ひとつの指標として、有名どころの演奏を分析し、基準にしておくのも良いでしょう。

世界の中で素晴らしい演奏をしている人が、どんな事を考えてプレイしているのか？

知識と言うのは、そう言った要素を分析し、自分の演奏に取り入れるのに必要なスキルの一つですね。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved